

せつめい文を よんで えらぼう

小2／文章を よんで、いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう

なまえ _____

ひづけ _____

1 九九を よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

九九をおぼえるとき、はじめは早口でとなえていました。でも、つかえてばかりで、早くいえるようになりません。そこで、ゆっくり書いておぼえました。すると、声に出してもつかえず、早くいえるようになりました。まちがいの数は、あまりかわりませんでした。

- 1 九九は、早口でとなえると、まちがいがへっていく。
- 2 九九は、ゆっくり書くと、早くいえるようになる。
- 3 九九は、早口でとなえると、早くいえるようになる。
- 4 九九は、ゆっくり書くと、まちがいがへっていく。

2 かくれんぼを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

かくれんぼで、はじめは小さくまるまってかくれていました。でも、すぐに見つかってしまいます。おにのうしろがわへそっと回ってみると、なかなか見つかりませんでした。見つからないこつは、かくれかたより、いる場しよなのです。

- 1 かくれんぼは、小さくまるまると見つかりにくい。
- 2 かくれんぼは、おにのうしろへ回るとにげやすくなる。
- 3 かくれんぼは、おにのうしろへ回ると見つかりにくい。
- 4 かくれんぼは、小さくまるまるとにげやすくなる。

3 紙ひこうきを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

紙ひこうきを遠くへとばそうと、強くなげると、すぐに下へおちてしまいました。前へそっとおし出すようになげると、すうっと遠くまでとびました。強くなげても、そっとなげても、空にいる時間はあまり変わりません。

- 1 紙ひこうきは、そっと出すと長く空にいる。
- 2 紙ひこうきは、強くなげると長く空にいる。
- 3 紙ひこうきは、強くなげると遠くまでとぶ。
- 4 紙ひこうきは、そっと出すと遠くまでとぶ。

4 なわとびを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

なわとびが長くつづかない人は、高くとぼうとしがちです。でも、高くとぶと足がすぐつかれて、なわにひっかかります。ひくく小さくとんで、手首でなわを回すほうが、ずっと長くとびつづけられます。

- 1 なわとびを長くつづけるには、小さくとぶとよい。
- 2 なわとびを長くつづけるには、なわを少しみじかくするとよい。
- 3 なわとびを長くつづけるには、毎日とぶことが大切だ。
- 4 なわとびを長くつづけるには、前を見てとぶとよい。

せつめい文を よんで えらぼう

小2／文章を よんで、いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう

なまえ _____

ひづけ _____

1 こおりの とけ方を よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

セーターを きると あたたかいので、セーターには ものを あたためる 力がある と思います。でも、こおりを セーターで つつむと、そのまま おくより とけにくく なります。セーターは、ねつを 通しにくく する 物のな のです。

1 セーターは、ねつを 出入り しにくく する ものだ。

2 セーターは、ねつを 作り出して 体を あたためる。

3 こおりは、金ぞくの上におくと早く とける。

4 こおりは、しおを かけると 早く とける。

2 ドミノを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

ドミノを ならべる とき、たおれないか 気になって、まを せまく して いました。でも、せまいと、とちゅうで 止まって しまいます。少し まを あけて ならべると、さいごまで たおれました。ならべるのに かかる 時間は、どちらも 同じくらいでした。

1 ドミノは、まを 少し あけると 早く ならべられる。

2 ドミノは、まを せまく すると さいごまで たおれる。

3 ドミノは、まを 少し あけると さいごまで たおれる。

4 ドミノは、まを せまく すると 早く ならべられる。

3 しゅくだいを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

しゅくだいを、かんたんな ものから やって いました。すると、さいごに むずかしい ものが のこって、なかなか おわりません。むずかしい ものから やって みると、早く おわりました。まちがいの 数は 同じでした。

1 しゅくだいは、かんたんな ものから やると まちがいが へる。

2 しゅくだいは、むずかしい ものから やると 早く おわる。

3 しゅくだいは、かんたんな ものから やると 早く おわる。

4 しゅくだいは、むずかしい ものから やると まちがいが へる。

4 しんけいすいじゃくを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

しんけいすいじゃくで、めくった カードの 場しよを 目で 見て おぼえよう としても、すぐに わすれました。「右のはしは ハートの 3」と、ことばに して 心の中 で 言うと、よく おぼえて いられました。ゲームに かかる 時間は、かわりませんでした。

1 カードは、目で 見て おぼえると 早く ゲームが おわる。

2 カードは、ことばに して 言うと 早く ゲームが おわる。

3 カードは、目で 見て おぼえると よく おぼえられる。

4 カードは、ことばに して 言うと よく おぼえられる。

せつめい文を よんで えらぼう

小2／文章を よんで、いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう

なまえ _____

ひづけ _____

1 友だちの名前を よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

あたらしい クラスで、友だちの 名前を 何回も 心 の 中で となえて おぼえよう と しました。でも、つぎの 日には わすれて います。すぐに 名前を よんで 話しかける ように すると、ふしぎと わすれなく なりました。

1 名前は、よんで 話しかけると なかよく なる。

2 名前は、心 の 中で となえると おぼえられる。

3 名前は、よんで 話しかけると おぼえられる。

4 名前は、心 の 中で となえると なかよく なる。

2 たんぽぽの花を よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

たんぽぽの 花は、一ど さいたら、そのまま ひらいて いると 思われがちです。でも、朝に ひらいて 夕方に とじる ことを、何日か くりかえします。そして、さいごに とじた あとで、わた毛の 玉が できるのです。

1 たんぽぽの 花は、小さな 花が たくさん あつまった ものだ。

2 たんぽぽの ねは、土 の 中で とても 長く のびる。

3 たんぽぽの わた毛は、雨の 日には とじて いる。

4 たんぽぽの 花は、何日か ひらいたり とじたり する。

3 ほうきを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

きょうしつ の そうじで、ほうきを 強く うごかして はいて いました。すると、ごみが とびちって、かえって 時間 が かかります。ゆっくり はく ように すると、とびちらずに、早く おわりました。ごみの のこり方は、どちらも 同じくらいでした。

1 ほうきは、ゆっくり はくと 早く おわる。

2 ほうきは、強く はくと ごみが のこらない。

3 ほうきは、ゆっくり はくと ごみが のこらない。

4 ほうきは、強く はくと 早く おわる。

4 手あらいを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

手を あらう ときには、あたたかい おゆの ほうが、よごれが よく おちると 思いがちです。でも、つめたい 水でも おゆでも、おちかたは あまり かわりません。大きく かわるのは、せっけんで こする 時間の 長さです。

1 手の よごれは、あたたかい おゆの ほうが おちる。

2 手の よごれの おちかたは、こする 長さで かわる。

3 手の よごれは、ぬれた 手の ほうが つきやすい。

4 手の よごれは、つめの 間に いちばん のこりやすい。

せつめい文を よんで えらぼう

小2／文章を よんで、いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう

なまえ _____

ひづけ _____

1 金魚の水を よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

金魚の水が よごれて きたら、ぜんぶ 入れかえたく なります。でも、一どに ぜんぶ かえると、水の ようすが 大きく かわって、金魚が よわる ことがあります。水は、少しずつ かえる ほうが、金魚に やさしいのです。

1 金魚の水そうは、まどの そばに おくと よごれやすい。

2 金魚の水は、くんで ひとばん おいてから 入れる。

3 金魚の水は、何回かに 分けて 少しずつ かえる。

4 金魚の水は、こまめに きれいに する ことが 大切だ。

2 きゅうしよくを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

きゅうしよくを 早く くばろうと、くばる 人を ふやしました。でも、ぶつかって しまい、かえって おそく なりました。とりに くる じゅんばんを きめると、早く くばれる ように なりました。こぼす 人の 数は、あまり かわりません。

1 きゅうしよくは、じゅんばんを きめると 早く くばれる。

2 きゅうしよくは、くばる 人を ふやすと こぼれにくい。

3 きゅうしよくは、じゅんばんを きめると こぼれにくい。

4 きゅうしよくは、くばる 人を ふやすと 早く くばれる。

3 こまを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

こまを 長く 回したくて、ひもを 強く 引いて いました。でも、まき方が ゆるいと、こまは すぐに たおれて しまいます。ひもを すきまなく きつく まいて、ふつうに 引くと、長く 回る ように なりました。

1 こまは、ひもを 強く 引くと まっすぐ 立つ。

2 こまは、ひもを きつく まくと まっすぐ 立つ。

3 こまは、ひもを 強く 引くと 長く 回る。

4 こまは、ひもを きつく まくと 長く 回る。

4 ふうせんを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

ふくらませた ふうせんを、さむい 外に しばらく おくと、少し しぼんで 小さく なります。空気が もれた わけではありません。中の 空気は、ひえると ちぢみ、あたたまると ふくらむのです。

1 ふうせんは、かみの 毛で こすると かべにつく。

2 ふうせんの中の 空気は、ひえると ちぢむ。

3 ふうせんは、外に おくと 空気が もれて しぼむ。

4 ヘリウムの ふうせんは、空気より かるくて うく。

せつめい文を よんで えらぼう

小2／文章を よんで、いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう

なまえ _____

ひづけ _____

1 めりえを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

めりえで、はみ出さないように ゆっくり めっていました。それでも、ふちから はみ出して しまいます。先に ふちを こい 色で なぞってから、中を めると、はみ出さなく なりました。色の こさは、どちらの めり方でも か わりません。

- 1 めりえは、ゆっくり めると はみ出さない。
- 2 めりえは、ふちを 先に なぞると 色が こく なる。
- 3 めりえは、ふちを 先に なぞると はみ出さない。
- 4 めりえは、ゆっくり めると 色が こく なる。

2 よみきかせを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

小さな 弟に 本を 読む とき、大きな 声で 読むと、弟は すぐに ほかの ことを はじめて しまいます。小さな 声で ゆっくり 読むと、顔を 近づけて、しずかに さいごまで 聞いて くれました。

- 1 弟は、小さな 声で 読むと しずかに 聞く。
- 2 弟は、小さな 声で 読むと すぐに ねむる。
- 3 弟は、大きな 声で 読むと すぐに ねむる。
- 4 弟は、大きな 声で 読むと しずかに 聞く。

3 クモの あみを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

クモの あみには、虫が ひっかかります。では、なぜ クモは 自分の あみに ひっかからないのでしょうか。あみには、ねばねばする 糸と、ねばらない 糸が あります。クモは、ねばらない 糸を えらんで 歩いているのです。

- 1 クモの 足は、こん虫より 多い 8本だ。
- 2 クモは、ねばらない 糸の 上を 歩いている。
- 3 クモの 糸は、とても 細いのに 切れにくい。
- 4 クモは、古く なった あみを 食べて しまう。

4 ヒマワリを よんで、この 文で いちばん 言いたい ことを 1つ えらびましょう。

ヒマワリの 花は、お日さまを おいけて うごく と よく 言われます。でも、お日さまを おって うごくのは、花が さく 前の わかい ころです。花が さいた あとは、ほとんどが 東を むいた ままです。

- 1 ヒマワリには、せが 3メートルに なる もの も ある。
- 2 ヒマワリの たねは、うずまきのように ならぶ。
- 3 さいた ヒマワリの 花は、お日さまを おって うごく。
- 4 さいた ヒマワリの 花は、多くが 東を むいて いる。